

養鶏設備 国内シェア60%へ

ハイテム

中国・天津工場が稼働

韓国や台湾
タイなど アジア市場展開も

養鶏設備製造販売のハイテム（本社各務原市テクノプラザ2の10、安田勝彦社長、電話058・385・0505）は、2011年をめぐりに採用用の養鶏設備で国内シェア60%をめざす。8月から中国・天津の新工場が本格稼働をスタート。コスト競争力の向上と性能アップにつなげ、シェアアップを狙う。また、中国工場を軸に、アジア市場への展開も視野に入れていく。

（各務原・片桐芳樹）

同社の国内シェアは、は独・サルメット社と、性能アップにつながる現在、40%。これまで共同開発していたが、（安田社長）と養鶏用ケーシングシステム



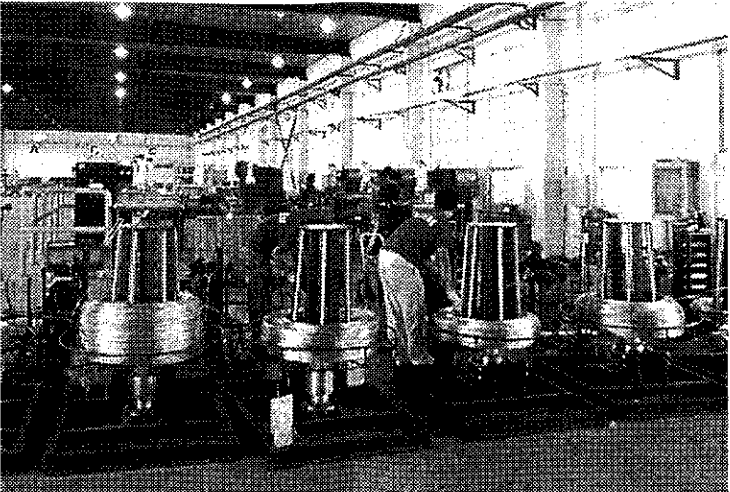
安田勝彦社長

このほど提携を解消し、自社製造に切り替えた。「中国工場での製造により、1割のコストダウンにつながる。設計に農場のニーズが折り込みやすくな

システムをはじめ、給餌システム、集卵システム、除糞システムなどの組み立てを行う。

まずは1直の生産体制で、年200万羽の生産体制構築に取り組んでいる。年内に軌道に乗せ、順次、2直体制を取り入れていく計画。「国内需要は年500万羽。中国工場がフル稼働すれば、十分にシェア60%の供給は可能になる」（安田社長）としている。

安田社長は「中国は、日本の何倍もの需要が見込める。本格展開の際には、現地の新興企業向け株式市場に上場し、設備投資と良質な人材確保に取り組みたい」と目標を掲げている。



スターハイテムの工場内